

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4070402724
法人名	株式会社 フジケア
事業所名	グループホーム高峰
所在地 (電話番号)	北九州市小倉北区高峰町3-3 (電 話) 093-562-1115
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年7月10日

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 2月 1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤	0人, 常勤換算	11.2人

(2)建物概要

建物形態	併設 ☒ 単独 ☐	新築 ☒ 改築 ☐
建物構造	耐火建築 造り	
	4 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円		その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無		有りの場合 償却の有無		有/無
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,167 円		

(4)利用者の概要(平成21年6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	8 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 73 歳	最高 100 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	有田クリニック・たつのおとしごクリニック・田辺内科精神科医院・末松歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地元の企業法人として地域に恩返しのため貢献をしたいということから、企業の独身寮を改築し開設された4階建ての複合施設である。マンション等のビルが立ち並ぶ住宅街にあり、1階がデイサービスとして開放的な造りになっている。2・3階がグループホーム高峰となっており、利用者一人ひとりが自由にゆったりと暮らしていける生活の場となっている。医療との連携が充実しており、協力医とも気軽に相談でき、健康的で安心した暮らしづくりが見受けられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった同業者との職員同士の交流は改善の継続が望まれる。交流を通じてさらなるサービスの質の向上につながることを期待したい。食事を楽しむことのできる支援では、献立によって職員も同じものを同じ食卓で食べるようにしている。評価訪問時は、職員は同じものを食べ、会話を楽しみながら団らの食卓となっていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成については主に管理者が作成し、全職員の意見が集約されたものとはなっていない。今後、職員全体で取り組んだ自己評価となるよう期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族代表や利用者代表の入れ替わり等により、運営推進会議への参加者のメンバーがなかなか揃わなかったが、家族・地域への声かけの甲斐あって、利用者と家族代表・町内会長・地域団体代表・地域包括支援センター・保健師・法人代表・副社長・管理者等が参加し、最近では2~3か月に1度開催している。ホームでの行事・レクリエーション・事故・医療・外部評価などの報告をしている。また、率直な意見をもらい、対応策は次回の会議にて報告し理解を得ている。2か月に1度の開催に至っていない為、周囲との調整を図り定期的な開催を目指している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	苦情窓口について書面での説明の他、玄関に意見箱の設置やエレベーター前に関連機関連絡先等を掲示して、家族が意見を出しやすい配慮をして出た意見は運営に反映させる体制が整えられている。家族から「お便りを郵送してほしい」「スタッフの顔と名前が分かるよう写真を掲示してほしい」との意見があり、直ちに受け入れ運営に反映させた。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会し、地域のバザーや交通安全活動・廃品回収等の行事に協力参加している。地域の小学生の町内見守り隊として参加したり、高校生の夏休みボランティアを通じ認知症への理解を得ることが出来るよう支援している。"たかふじの日"として地域交流の集いを行い、積極的に地域との付き合いに努めている。山田緑地で1年に1回行われる認知症フォーラムに参加し、一般の方と森の散策など楽しんでいる。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お一人おひとりの個性を尊重し、新しい生活の場を提供して、利用者・家族・地域の笑顔を大切にできる地域づくりへの貢献、人とのふれあいを大切に、皆様の心を受け止める介護を提供する」という事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が、常に意識・共有できるよう玄関に掲示している。日々の申し送りやミーティング、ケアカンファレンス等で話し合い、サービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、地域のバザーや交通安全活動・廃品回収等の行事に協力参加している。”たかふじの日”として地域交流の集いを行い、積極的に地域との付き合いに努めている。山田緑地で1年に1回行われる認知症フォーラムに参加し、一般の方と森の散策など楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員共に自己評価・外部評価の意義について理解している。自己評価票作成については、主に管理者が作成し、全職員の意見が集約されたものとなっていない。	○	一部の職員の意見に留まらず、職員全体で取り組んだ自己評価を作成し、サービスの質の向上に活かされるよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表や利用者代表の入れ替わり等により、運営推進会議への参加者のメンバーがなかなか揃わなかったが、家族・地域への声かけの甲斐あって、最近では2～3ヵ月に1度の開催にて外部評価結果やホームでの実施状況等について報告し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また、2ヵ月に1度の開催に至っていない為、周囲との調整を図り定期的な開催を目指している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	見守りサポーター養成・傾聴ボランティア・実習生の受け入れなど積極的に行い、行政とともに、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、地域包括支援センターからの緊急入居者の受け入れに対応したりと、行政との連携は強くとれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族がおられない利用者に対し必要性を協議し、現在4名の方が日常生活自立支援事業を活用されている。その為、全職員が権利擁護に関する制度を理解している。また、新スタッフが増えてきている状況にあるため、研修にて継続的に学ぶ機会を持ち、知識を高めるよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の近況報告をし、預かっている小口現金の出納帳を確認してもらったり、家族からの話も積極的に聞いている。また、個別での電話報告も随時行っており、写真と便りを郵送したりと、個々にあわせた報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	書面での説明の他に、玄関に意見箱の設置やエレベーター前に苦情窓口関連機関連絡先等を掲示している。家族から、「お便りを郵送してほしい」「スタッフの顔と名前が分かるよう写真を掲示してほしい」との意見があり、直ちに受け入れ反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階のデイサービスと行事を一緒にしたり、常日ごろからデイサービスの職員ともかわり、顔馴染みになっているので、異動等が利用者にとってダメージを与えることはない。新職員については利用者にその都度紹介し、また、家族にも面会時やお便りにて紹介している。本年度より、運営方針の中で四半期に1度はスタッフと管理者の個人面談を行い、離職を必要最小限に抑えるよう努めている		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、年齢・性別・経験で対象から排除することなく、適性と意欲を重視し、採用している。また、職員は社会参加や自己実現の為の希望休日が取れたり、個々の能力が発揮できるよう管理者との面談を行う等、働きやすい環境づくりに努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の人権を第一に考え、人権を尊重したサービスが提供できるよう常に話し合いを行っている。日常的な業務内容・利用者への言葉づかい・呼び方等のマニュアルを作成し、内部研修を中心として継続的な人権教育に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者には採用後1ヶ月以内に管理者や主任による初任者研修を行い、現任者には年2回の継続研修を行っている。今年度は、経験に応じた個人研修計画を作成し、業務内研修でスキルアップ出来るよう職員育成に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、認知症フォーラムの実行委員長を受託しており、その活動を通じて他施設との交流を図っている。運営者・管理者は、同業者と交流を図り相互訪問を通じ情報交換が出来ているが、職員レベルでの交流には至っていない。	○	運営者・管理者の交流を機会に、職員レベルでの交流も深め、活動を通じてサービスの質の向上につながるよう期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の協力を得ながら入居前の訪問に時間をかけて、利用者の気持ちを受け止めながら、職員との馴染みの関係を築いている。使い慣れた家具などの持ち込みもでき、希望があれば体験入居も可能である。入居した際に家族に1泊泊ってもらい、不穏なく、ホームの雰囲気に自然に馴染んでもらえるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、裁縫・料理・漢字の読み方や戦争の話など教わることが沢山ある。また、利用者と一緒に過ごしていると物を粗末にはしていないことに気付かされる。日々、喜怒哀楽を共にし支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常、利用者と寄り添う中で思いを汲み取るように努めている。困難な場合は生活歴や日常の動作から思いを把握したり、家族からの聞き取りで利用者の立場に立ち検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人・家族の希望や意向を第一に、ミーティングや月1回のカンファレンス時に職員間で検討を行い、医師の意見を聴きながら利用者本位の介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。一人ひとりの計画に添ったケアが行われているかを、毎日チェック表でモニタリングし、3ヶ月毎に一人ひとりの利用者について職員全員がコメント用紙に見直し時のコメントを記載し、全員で検討している。急変時には利用者本人・家族・必要な関係者と話し合って現状に合った介護計画書を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊希望があれば寝具や食事を提供している。また、お墓参りの希望者に職員が同行したり、眼科、皮膚科、歯科受診には職員が受診介助をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医を基本としている。家族の受診介助が困難な場合は職員が介助しているが、ホームの医療連携体制が整っている点もあり、家族の希望等でホームの協力医へ変更される方もある。利用者・家族の希望に柔軟に対応しながら健康管理を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去3名のターミナルケアを行っている。医療連携加算体制及び終末対応についての指針の説明を行っている。医療関係者・家族等と協力しながら重度化対応・終末期ケアへの対応を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者ひとり一人の自尊心を大切に言葉掛けや接し方を工夫している。職員間で不適切な声掛け等、気づいた時にはその都度注意しあうようにしている。個人の記録等はカウンター奥の職員のみが見れる場所で管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールはあるが、朝遅く起きる方、夜遅くまで起きている方には自由に過ごせるように、強制することなく一人ひとりのペースを大切にしている。眠剤の服用者は無い。利用者の希望に添って外出や買い物、散歩に出かけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も職員と一緒に野菜の切り込みやおにぎりを握ったり、野菜の皮むきなどを行っている。鍋料理等では職員も利用者と一緒に同じ物を同じテーブルで摂食しているが、日常は職員は弁当をひろげ、利用者とおかずをやり取りして楽しく食事を摂食している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴時間は午後としており、個浴でその都度湯を入れ替えて、一日3名の入浴としている。希望があれば毎日の入浴も可能であるが、利用者からの希望は特に無く、3日に1度の入浴が通常となっている。	○	利用者から毎日の希望は無いとのことであるが、特に夏場はシャワー浴も可能であり、爽快感や清潔の保持の観点からも声掛けの工夫が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の三味線やピアノ、詩吟、書道などを楽しむ方や調理の得意な方は味付けをしたり、お茶碗洗いや下膳を手伝ったりと、一人ひとりの生きがいや楽しみが発揮できるように支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	皆であじさいを観に行ったり、四季折々の花見に出かけている。天気の良い日には、おにぎりを皆で作って出かけたり、日々の散歩にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしていない。ホームは2、3階でエレベーターを利用して戸外に出ているが、職員数も十分であり、利用者が戸外へ出かけたいたと感じ取れたときには、職員が同行して支援をしている。また、1階の出入り口にはセンサーを設置しており、外出の気配が感じられれば1階の職員とも連携をして外出に同行している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	職員は定期的に避難訓練を行いつている。避難場所、避難ルートについては十分に周知しており、消火器の使用法も把握しているが、利用者も参加しての避難誘導訓練は行っていない。	○	非常災害時の対応として、消防署の指導の下で利用者避難誘導としての訓練を定期的に行うことが望まれる。また、非常時に備えての飲料水等の備蓄も望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂食量、水分摂取量をチェックし、分かりやすく表にして適量の摂取が出来るように配慮している。栄養面では栄養士がカロリーを計算して、利用者の状態に合った食事が出るように管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームはビルの2、3階にあり、共用の空間は採光も適当で、十分な広さが確保されている。2階のユニット室内で防犯のためとして大きな番犬が飼われているが、初めての訪問者に驚きを与えるほど吠える。また、梅雨時期でもあり犬の排泄物が臭っていた。	○	吠えてこそその番犬であるが、家族や地域の人たちが気軽に訪問できるような環境が望まれる。また、排泄物の臭いへの対策を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時からの馴染みの家具やテレビ、仏壇等を持ち込み、壁には家族の写真や好みの飾りをして、利用者が居心地良く過ごせる工夫がなされている。		